

一緒に高知の「暮らし」のこと FUTAGAMI

いえとにみ



No. 1
創刊号
2021.4

TAKE FREE

徹底解剖「工場出し生活ロール」
——土佐和紙の技術を活かした不織布——
羽ばたいたハネ、見えた未来
対談・生活ロール誕生秘話と新たな企業展開
「コマリゴト解決し隊！」
「キッチンモンダイ研究所」
有料レジ袋の売上を木の温もりに換えて
こうち訪ね歩き「高知県梼原町」



なんでも相談
FUTAGAMI

ここがポイント！住まいのメンテナンス ～雨戸編～

“春から備えておきたい雨対策”

今から点検、もしも不具合があれば早めのメンテナンスがおすすめです。

「イエノコマリゴト」のどんなご相談にもお応えできます。
お気軽にご相談ください。お見積もりは無料です。

雨戸について

〈よくあるコマリゴト例〉

- 戸車がサビ付いてスムーズに開閉できない。
- 雨戸が傾いて、動かすとガタガタと音がしたり、ピツパリしまらない。

〈どんな対策を行う？〉

- 戸車が摩耗していたら新しいものに交換する。
- 雨戸が傾いていたら、戸車のネジで調整する。

台風や大雨対策に、雨戸の後付け設置も可能です。

ここ数年の自然災害の多さに備えて、台風対策としてシャッターを取り付けたいという方も増えています。大切な家を守るために、今の季節から対策をお考えください。

窓 口 設 置 店



ハート薊野店・ハート朝倉店・ハートクエスト野市店・マルニクエスト古津賀店
ブリコ横橋店・ブリコ介良店・FUTAGAMI HOME & GARDEN



発行／株式会社フタガミ 発行日／2021年4月
制作・編集／クリケツ「季刊高知」編集部

<https://www.futagami.co.jp/>

フタガミHP 検索



徹底解剖 その②

どう使う？ 社員おススメ活用法

野菜の湯切り
に活躍！

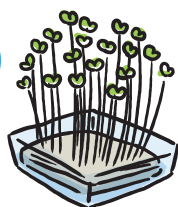
ハマート野市店
杉本さん



よくブロッコリーを湯がいて娘と一緒に食べているのですが、余分な水分を取るときにすぐにヨレない、破れない点が最適です。

スプラウト
の育成に
いいですよ。

マルニガーデン
谷口さん

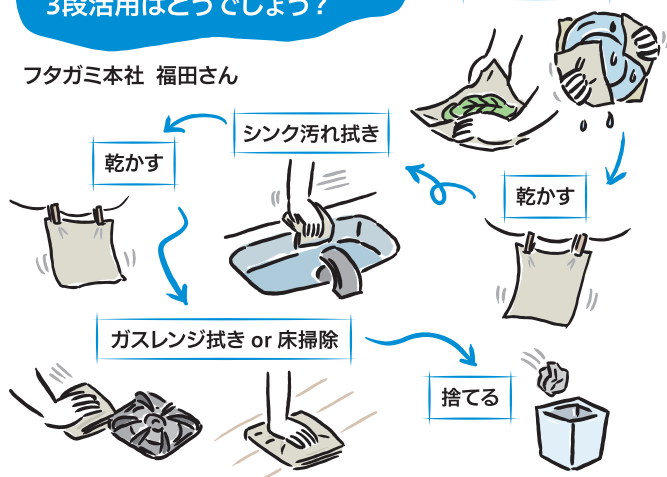


容器に折り畳んで湿らせ、種を蒔きます。水をよく含んで乾きにくいのでおススメです。根が出てきたら「生活ロール」に根付くので、収穫時スプラウトがカットしやすいのも◎。

食用に使用後、お掃除などに
3段活用はどうでしょう？

野菜水切り or
食器拭き

フタガミ本社 福田さん

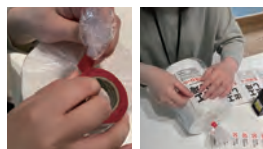


徹底解剖 その③

ここだけの秘密

店頭に出す前に想いを込めて

出来上がった「生活ロール」を工場に直接取りに行き、ラベル貼りとマスキングテープ巻きはフタガミ社員の手で。商品を育てる作り手の心を大切に。開ける時にちぎりやすいマスキングテープは、こだわりデザインのロゴと揃えた赤色です。



2017年度グッドデザイン賞受賞！

1957年に創設された日本唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みであるグッドデザイン賞において、土佐和紙が持つ伝統技術を現在の生活に生かす試みをした点や、ユーザーに多様な用途の可能性を感じさせ創造力を刺激する点、余計なものを一切省いたデザインが評価されました。



徹底解剖 工場出し 生活ロール

— 土佐和紙の技術を活かした不織布 —

不織布が口コミで
大ヒット人気商品に！
使いやすさを知れば、
入荷を待ち望まれる
理由に納得。
活用法から裏話まで
一挙公開します。



徹底解剖 その①

ここが違う! 「工場出し 生活ロール」

天然素材100パーセントの不織布

手漉き和紙と同じように、水の力で不織布の繊維を絡めています。接着剤を使っていないので、水の浸透を自由自在にコントロールでき、ある程度の強度が。天然素材で出来ているから、食品にも、デリケートな素肌にも安心して使えます。

吸湿&保湿が出来る紙製品です

お肉を「生活ロール」で包むと、食品の水分の中に入っている雑味も水分と一緒に吸い取ってくれるので素材が美味しくなります。
お野菜も洗い上げた後に「生活ロール」で包んでポリ袋に入れておくと、水分を吸う&補ってくれるので、野菜がへたれず長持ち。

高知県民の日常調理に最適

「生活ロール」は水分を取るのに適した三層構造のブレーン加工です。例えば、スーパーで買ってきたカツオの冊の汚れをお家の台所で軽く流し、パッパッパッと包んで水分を取るのに最適です。ミシン目がついているので切りやすく、巻きの内外両側から引き出しOK。

特別対談

『羽ばたいたハネ、見えた未来』

地元製紙会社が作る不織布のハネがいかにして
人気商品の「工場出し生活ロール」になっていったか、
誕生秘話と新たな企業展開をインタビュ。

ハネ不織布を商品に変える

中西 事の始まりは、昨年退社した弊社の元相談役、山崎のお米だと聞いています。わしが作ったお米をあげたら代わりにこんなもんもうたと言つて、山崎が会社を持って来たのが生活ロールの原形、不織布ロールというハネの品だったとか。

鈴木 はい、お米をいただいた御返しに不織布ロールをお渡ししましたら、すごく気に入ってください。

中西 当時、お裾分けをもらった会長や社長、専務が、タコの料理を作るときに不織布を一回水で濡らして巻いて冷凍したら表面だけが凍って料理がしやすいとか、サラダの作り置きの下に敷いたらえいね、と使い方自慢をしていたようです。それで、これをなんとかしてフタガミで商品として売りたいと、山崎がデザイナーの梅原真さんのところへ持って行きました。

鈴木 梅原さんはあまり工業的なものはデザインしないということで、最初は、振り向いてもらえなかったそうです。

高知県民はカツオ好き。冊を水でさつと流した後の水切りには、生臭くなるふきんや剥げにくくて残りやすいキッチンペーパーと比べると、不織布がものすごく適していると分析しました。

鈴木 私たちは既にあるものだからと簡単に考えていたら、商品仕様が決まるまでに半年くらいはかかりました。こだわりのものがすごく強く、こんなにシンプルなのに、長さ、厚み、材質、表面の仕上やミシン目等、お客様のために真剣に取り組んでいらつしやうって、そのことが功を奏したと感じます。

中西 これまでモノづくりに関わって来ていない私たちには、メーカーさんのしんどさが分かっていませんでした。製品を作る中で、ホームセンターは、誰かが一生懸命考えて作った商品を仕入れて流し利益を稼ぐ、それだけの商売だと思いました。

でも、それでは面白くない。社員の気持ちクリエティブなものから離れて行かないよう、製造の方に少しでも近づきたいと思いました。



届けることが 出来れば 愛され商品に

高橋 生活ロールは、2019年は5回、2020年は7回納品させていただきました。昨年はマスクに活用されるなどコ口

中西 ただ、梅原さんの奥さまは不織布ロールの良さを「ご存じで、私はこれがないと暮らせないと言われた、その言葉で梅原さんの心に火がつき、今度は、フタガミがこの商品を販売させてくれないかと鈴木社長のところへ行きました。

鈴木 私たちの工場は、不織布を原紙から製品まで一貫生産しているという会社で、どうしても出る濃きむらで規格に合わない可能性のあるものはハネ出していました。ただ、全部不良品ではなく十分に使えるものなので、知っている方だけにハネが出た時のみお分けしていたのが不織布ロールでした。ご依頼を受けて驚きましたが、ハネではなくきちんとした商品として作ることを決めしました。

こだわり抜いて 生み出したモノを売る経験

中西 開発当初、皆が口々に使い勝手を言うので、何でも使えるけれど、スーパーで買ったカツオの冊の水切りに特化して進めて行くことに決めました。

ナ禍で一気に需要が広がりました。

鈴木 多くの店舗をお持ちのフタガミさんならではの店頭力ですよ。生み出した物や情報をフタガミさんがお客様へ届ける役目をしてくださることが、多くのお客様に購入していただけることにつながりました。

モノの良さを伝えて 羽ばたかせるといふ使命

鈴木 何より嬉しかったのは、私たちの商品を高知県の方に知ってもらいたいという思いが、フタガミさんのお陰で実現できたことです。

そもそも不織布ロールをお分けするようになっていた原点の気持ちには、不織布は見た感じがただの白い紙なので、使っていただかないと良さが分からないということがありました。それが、今や、生活ロールとしてこのようにシンプルなものだけど高知の誇れる品に育てていただきました。

中西 私たちもこの生活ロールのおかげで、それまで使命だと思っていたことがそうではないと気づくことが出来ました。モノの良さをどうやって伝えるて行くか、良いモノをきちんと伝えるという使命が自分たちにはあるのではないかということを考え始めました。それが、その後のハート薊野店の改装にも繋がっています。量販的なものではなく、面白い売り方や体験の仕方を自分たちはもっと考えなくてはいいなと思うきっかけでしたね。

【工場出し】シリーズ製品化の道のり

- 2005年頃** 工場にて、製品の「ハネ」を知り合いにお裾分け。人気が出たため「不織布ロール」として手作業で袋詰めをし、ハネがある時のみお裾分けを続ける。
- 2013年12月** フタガミの山崎元相談役が「不織布ロール」を頂く。製品の良さにフタガミで販売したいと決意。デザイナーの梅原さんを説得。(株)三彩に製品生産協力を取り付ける。
- 2014年3月** 開発に着手。半年をかけて商品仕様が決まる。さらに商品パッケージデザインも制作。
- 2014年12月** 【生活ロール】誕生、発売開始。以降、工場出しシリーズの商品開発を行い始める。
- 2016年** 料理人のリクエストを受け【魚菜ロール】発売。
- 2016年12月** (株)三彩提案の【おそうじシート】をシリーズに加え、限定発売。年末掃除で人気が出て、定番化。
- 2021年現在** 【生活ロール】は発売以来、右肩上がりの売上継続中。

次号の『徹底解剖』は…

今春オープン予定
フタガミ ホーム&ガーデン薊野展示場
フタガミの「継承される家づくり」に迫ります。



株式会社三彩

代表取締役 **鈴木 佐知代氏**(写真中央)

企画開発担当 **高橋 麻子氏**(写真左)

高知県土佐市の会社。紙、不織布の加工販売、ならびに化粧品、雑貨品の販売を手掛ける。グループ会社の三和製紙・三昭紙業(各社1960年代創業)と共に問屋を通じて長きに渡りフタガミに紙製品を納品し続けている。現在、社員は全員女性。鈴木社長は、常々、フタガミの家づくりの考え方が女性目線で暮らしやすいと好感を抱いてきたという。

株式会社フタガミ

取締役 **ALL FUTAGAMI推進室長**

中西 一晃(写真右)

当時の生活ロール開発担当者。その後、社内プロジェクトチーム、キッチンモンダイ研究所まとめ役として後発のプライベートブランド商品の開発にも携わる。三十年來の三彩商品ユーザーでもある。

コマリゴト 解決し隊！

住宅＋ホームセンター＋専門店、いろいろな分野のプロフェッショナルがいかにコマリゴトを解決していくか？
お客様に向かう仕事内容や心意気に迫ります。

キッチンモンダイ研究所



今回のプロフェッショナル
プロジェクトチーム
「キッチンモンダイ研究所」
矢野 剛志・安部 彩里
(ホームセンター部)

Q キッチンモンダイ研究所は
どうして生まれたのですか？

A お客様の悩みを解決するプロジェクトからオリジナルスポンジを開発することになり、想像以上にキッチンでの悩み・ストレスを感じている方がとても多いことが分かりました。
そこでお悩み解決プロジェクトチーム「キッチンモンダイ研究所」を立ち上げることに。メンバーはいろいろな部署の社員で編成されています。

お客様からキッチンのコマリゴトを聞き、解決する商品をご提案。もし、解決できる商品が無く、需要があると判断したら、オリジナル商品を開発するスタイルを目指しています。

Q オリジナルスポンジ第一弾の
開発はどのように？

A 店頭販売中のスポンジについて問題を話す中で、値段が少し高くてもいいスポンジを作ってみようと、キッチンモンダイの商品開発がスタートしました。そして、長年、多くのお客様に愛



用されているキッチンスポンジ「キクロンA」を製造されているキクロンさんに開発協力をお願いしました。

まず、素材は泡立ちが良くてへたりにくいものとし、色はシンプルで落ち着いた色の白と黒の2色に。大きさは、いろいろな意見があり自分好みに切れる大判タイプにしました。これが工場出し、洗いもん用スポンジ」として、工場出しシ

リーズのオリジナルスポンジ第一弾が誕生しました。

Q 反響はいかがでしたか？

A 嬉しいことに上々の反響を得ることができました。一年後には、第二弾として、女性が持ちやすい小判型スポンジも開発し、販売しました。その販売に際し、スポンジ以外にもキッチンまわりのコマリゴトが多いことがわかり、それを解決する商品として、シンク汚れの洗剤や二オイ対策の商品等もご提案する「キッチンモンダイ研究所」が立ち上がり現在に至っています。

Q 次なるプロジェクトを
教えてください

A 「キッチン収納術」や「キッチン汚れ事前対策」を「ご提案予定」です。
これからも商品単体に限らず、お客様のコマリゴトを次々に解決していける商品をご提案して行きたいと思っています。ストレスなく、楽しいキッチンライフを送っていただけると嬉しいです。

次号の『プロフェッショナル』は…

建築施工現場を取りまとめ、お客様のお家づくりの快適を追求する現場責任者が登場！

建築事業部 現場監督
嶋崎正志さん



お客様からの「あったらいいな」を形にしたオリジナルスポンジです。

FUTAGAMI × **キクロン**
工場出し 洗いもん用スポンジ

- ポイント①**…泡立ちが良い！乾きが早い！へたりにくい！
- ポイント②**…コーヒー渍や茶渍を水だけで落とせます。
- ポイント③**…キッチンコーディネートに溶け込むフタガミ限定カラー！
- ポイント④**…大判スポンジは、用途に応じて、好みの大きさにカット可能。小判型スポンジは、女性の手で持ちやすい形状＆サイズ。



私たちの社会貢献活動 フタガミSDGsの取り組み

有料レジ袋の売上を 木の温もりに換えて

「フタガミSDGs宣言」
「持続可能な開発目標」の達成に向け2020年10月に「フタガミSDGs宣言」を策定しました。目標を意識して地域社会の課題や環境問題の解決に取り組む、高知県民になくはならない企業になることを目指します。

レジ袋有料化の収益で
小学校へ掲示板寄贈と
植樹を

同年7月からのレジ袋有料化に伴い生まれた収益を還元する活動の一つとして、12月に南国市立十市小学校へ掲示板を寄贈しました。
十市小学校との縁はかれこれ10年に及びます。毎月第2金曜日の朝にフタガミが掃除の会として学校の前の歩道の清掃をしている、その日時に合わせて十市小学校もゴミ拾いの活動を行うようになり、互いに挨拶を交わす関係を築いてきました。

ヒノキの温かみ、
県産材の良さを感じて欲しい

木製掲示板はホームセンターのスタッフがDIYで作成。住宅事業でもお付き合いのある梶原町の間

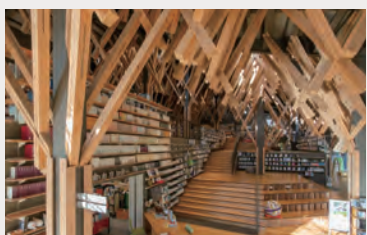


伐材を使用しました。20年30年と小学校の皆さんに使ってもらい、木の温かみ、高知県産材の良さを感じて欲しくて、ヒノキにこだわりました。
早速、設置したヒノキの掲示板を図書委員さんが活用。松岡教頭も「こうしてきれいな掲示板に飾ると、子どもたちも喜びます。長く活用させていただきたい。」と笑顔を見せてくれました。

こうち 訪ね歩き

高知県梶原町

世界的建築家に
影響を与えた場所



梶原は、高いところで標高1、455m。四国カルストに抱かれた、高知県西部の県境に接する町です。国に選ばれた環境モデル都市で、森林資源の循環利用に力を入れるなど環境保全への取り組みを行う林業の先進地でもあります。

須崎からかつて幕末の志士も駆け抜けた梶原街道に車を走らせ、いくつかのトンネルを抜けて梶原に足を踏み入れると、木造の温かさがあらわらすつきりと整備された町並みの出現に驚かれます。そして、町のあちこちに見られる世界的建築家・隈研吾氏の建築物。なぜ、このように狭い範囲に隈氏の建築が6棟も建てられたのでしょうか？

きっかけは1992年のこと。初めて梶原を訪れた隈氏は、「ゆすはら座(当時の梶原公民館)」に出会い、大正時代の和洋折衷様式を取り入れた伝統建築の技に衝撃を受けたといいます。ゆすはら座で木造という建築技術を再発見した隈氏は、後に「梶原で新しい可能性を見つけた」と繰り返し語っています。そして、町と隈氏が協働をする中で、町面積の91%を森林が占める梶原には建材としての木材がふんだんにあり、それを使いこなせる職人、大工の技術があったことが隈氏の6棟の建築物を生み出し続けることを可能にできました。
木と伝統と隈建築が結びついた梶原の町。一度は訪れてみてほしい場所です。